

28. 若手による医学教育とそのキャリア支援部会^{*1}

橋本 忠幸^{*2}（部会員・大阪医科薬科大学） 西城 卓也^{*3}（部会長・岐阜大学）

若手とはそもそも学ぶ側であり、指導する立場にない。一般的にはそのように捉えられている。しかし、様々なデータからも研修医や専攻医のような実際に臨床の最前線で働いている彼ら彼女らこそ、教育の現場で重要な役割を担っていることがわかっている¹⁾。「あなたが最も思い出に残っている指導医はだれか」という問いを世界中の臨床教育機関で行ったところ、先輩研修医が最も重要で思い出に残る指導医であった、という報告もある²⁾。近しいからこそ、一緒にいる時間が長いからこそ、できる指導もある。若手も立派な指導医となりうるのである。

しかし、若手の彼ら彼女らが指導方法を受ける機会は多くない。医学教育に興味は持っているものの学ぶ場所がない、日本医学教育学会に行っても居場所がない、そんな声も聞く。学会参加者の若手有志で、2016年大会から「医学教育に興味のある若手の集まり」として、大会開催時に任意に参加者を募って、会合を開いた。毎回30人前後の若手が集まり、「若手のための部会」のニーズがあることがわかった。

そこで2019年に当時の理事会へ本稿著者2名で「日本医学教育学会若手部会設立」の企画書を提出した。元々の構想と相まって現体制より「日本医学教育学会若手による医学教育とそのキャリア支援部会（以下、若手部会）」が発足された³⁾。若手部会のメンバーは市中病院と大学病院の若手指導医を主体としており、病院

指導者の教育活性化・学会参加促進をも視野に入れた構成となっている。そして、第53回日本医学教育学会大会では若手部会によるシンポジウム「若手医学教育者のキャリアパス〈なぜ私は医学教育を選んだのか〉」を開催し、多くの若手医学教育者が集めることができた。

今後は若手医学教育者に向けて、「キャリア支援のための情報共有」、「若手のための指導力向上ワークショップ（Residents-as-Teachers WS）」や「初心者のための医学教育研究ワークショップ」といった、様々なコンテンツを定期的に開催したい。

■文 献

- 1) Ramani S, Mann K, Taylor D, Thampy H. Residents as teachers: Near peer learning in clinical work settings : AMEE Guide No.106. *Med Teach* 2016 ; **106** : 1-14.
- 2) Aba Alkhalil B. Near-peer-assisted learning (NPAL) in undergraduate medical students and their perception of having medical interns as their near peer teacher. *Med Teach* 2015 ; **37** : 33-S39.
- 3) 錦 織 宏. 委員会報告：将来構想若手ワーキング7. 日本医学教育学会大会のあり方, 医学教育 2019 ; **50** : 41-5.

副部会長：矢野（五味）晴美，部会員：小杉俊介，幕内安弥子，徳増一樹，松島加代子，尾原晴雄，増田良太，長崎一哉，担当理事：西城卓也

*1 Young Educator Subcommittee

*2 Tadayuki Hashimoto

*3 Takuya Saiki